
学会声明 - 東日本大震災に際して

- 最終更新日 (2011/04/16 Saturday 14:54:21 JST)

東日本大震災に際してこのたびの震災で被害を受けられた皆様にお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々に哀悼の意を表します。また、福島での原子力発電所事故には、深い憂慮を示すものです。科学技術社会論学会は、今から10年前の2001年に発足しました。現在進行中の複合的な事態は、科学、技術、社会の関係の研究を対象とする本学会に、大きな課題を突きつけるものと考えます。原子力はもとより、防災、医療などの面でも、科学技術に関わる組織、集団、制度、コミュニケーションのあり方を見直す必要が浮き彫りになってきています。今回の震災は、携帯電話やインターネットが本格的に普及して以来最大規模の広域災害であることも特徴であり、高度技術社会の功罪も吟味される必要があります。本学会では、年末の年次大会・総会(2011年12月3,4日に京都大学にて開催)を目標として、今回の震災が社会および私達の学会に提示した課題を整理し、社会的な議論を喚起するための活動を展開して参ります。まず、6月中旬に開催予定の学会シンポジウムで開かれた討議の場を設け、12月の学会創立10周年の記念シンポジウム(計画中)では、これまでの学会の活動を振り返り、科学技術社会論が今回の災害のような課題に直面していかにあるべきかの検証を行う予定です。2011年4月10日 会長 中島秀人